

令和5年度第1回 奈良市環境基本計画推進会議の意見の概要	
開催日時	令和5年8月2日（水）午後2時00分から4時00分まで
開催場所	奈良市役所 中央棟4階 401会議室
参加者	出席者6人、事務局3人
開催形態	公開（傍聴人1人）
担当課	環境部 環境政策課
案件	1. 「第3次奈良市環境基本計画」令和4年度実績評価コメントのとりまとめについて 2. 第3次奈良市環境基本計画の推進について 3. その他
資料	【資料1】 令和4年度（2022年度）実績評価コメントとりまとめ案 【資料2】 令和4年度（2022年度）実績評価コメント抜粋 【資料3】 令和4年度（2022年度）実績担当課自己評価シート 【資料4】 指標評価結果一覧 【資料5】 指標の調査方法について
意見等の内容	
<p>《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》</p> <p>（1）「第3次奈良市環境基本計画」令和4年度実績評価コメントのとりまとめについて</p> <p>「第3次奈良市環境基本計画」令和4年度（2022年度）実績評価コメントのとりまとめについて、各指標に関する令和4年度実績及び担当課の自己評価に対して、参加者皆様からいただいたコメントを事務局で整理した。</p> <p>今回の令和4年度（2022年度）実績評価対象指標数は11個であり、指標No.2「環境保全活動に参加したいと思う市民の割合」が市民アンケート調査結果から得るデータであり、令和4年度は実施していないため、今回の評価対象からは外れている。評価方法については、昨年度の推進会議において、「行動指針・目指す方向性」を新たな評価項目として追加することとなり、担当課に毎年度作成してもらう指標別の点検評価基準表を【別記】として記載している。</p> <p>より多くの意見を取りまとめに反映するため、【資料2】「令和4年度（2022年度）実績評価コメント抜粋」において、すべてのコメントを記載し、その中から参考としたい文言を箇条書きで抜粋している。抜粋したコメントの他に、とりまとめに反映していきたいコメント</p>	

や重要なキーワードなどがあればご意見をいただきたい。【資料1】「令和4年度(2022年度)実績評価コメントとりまとめ案」において、抜粋したコメントからとりまとめ案を作成したものを掲載している。本日、参加者皆様からいただいたご意見を元に、とりまとめ案を修正し、後日ご確認をお願いする予定である。その後、とりまとめ案を環境審議会で確認いただいたのち確定し、速やかに担当課へフィードバックする予定である。

各指標の評価コメントとりまとめ案及び総括コメントとりまとめ案についてご意見をいただいた。

○質疑・意見の要旨

<基本方針①(シート No.1)について>

【No.1】 学校園での環境出前講座開催数

- ・ 小学校3年生に実施している「ECO キッズ! ならの子ども」事業について、もう少し広げて、地球温暖化について学ぶ4年生や5年生で、再度定着のために実施できれば良い。
- ・ 出前講座を受ける学校はリピーターが多い。逆に言えば、新たに出前講座を申し込むのはハードルが高いのかもしれない。
- ・ 教育委員会での周知方法について、校長会などを活用するなど、より幅広い周知方法について検討してもらいたい。

→ご意見を参考に、今後の進め方を検討していきたい。

⇒基本方針①については、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

<基本方針②(シート No.3~5)について>

【No.3】 市域の温室効果ガス排出量

- ・ 再エネ導入に当たっては、例えば太陽光パネル設置後は発電効率を維持するためにメンテナンスが必要で、そのための予算を確保しておく必要がある。
- ・ 再エネ導入前には、まず省エネ、断熱が重要である。エネルギーの無駄にならないよう、優先順位をつけて効果的に実行してもらいたい。

【No.4】 市内の再生可能エネルギーによる発電電力量

- ・ 目標値に対して実績値がかなり開きがあって、単年度達成率が61.6%だが、これから年数をかけていって改善するのかなと思う。非常に厳しい目標値が設定されているのではないか。目標値はどのように設定された数値なのか。

→第3次奈良市環境基本計画の目標値を設定するに当たり、政府が策定したエネルギー基本計画において示された電源構成の再エネ比率を36～38%にするという目標に合わせ、2030年に電源構成の再エネ比率が36%になるよう算出した発電電力量である。

- ・政府の目標も非常に厳しいとは思いますが、奈良市も目標達成に向けてどんどん再エネを導入していかなければいけない。今年度、環境省の重点対策加速化事業に採択されたので、できる限りそれを活用して、公共施設だけではなく、民間の宿泊施設や他の施設にも導入していかなければ進まない。ぜひ有効活用していただきたい。

→重点対策加速化事業の中で、PPAを使用して再エネを導入していこうと、現在、調整をしているところである。さらに宿泊施設や私立学校等についても、広報をかける準備を行っているところである。令和5年度から9年度までの5年間で事業を進めていくために現在調整を行っており、いよいよ動き出すところである。事業者に対しては、あくまでも事業者から手を挙げていただく必要があるため、今後、いかに広報を行っていくかということが課題になってくる。また、推進会議の皆様にもご協力をお願いしたい。

- ・市民共同発電所の11基目に取り掛かろうとしているところだが、やはりお金がないと感じている。自己資本金が100万円以上でないと補助金の上限金額をもらえないが、その100万円以上が出せない。重点対策加速化事業で補助率をもっと上げるなど検討してもらいたい。
- ・災害が多いため、太陽光パネルの保険料がかなり上がっている。
- ・設置後10年ぐらいで、やはり1、2ヶ所故障が発生する。部品が入らないこともあり、止まっているところもある。つけたくても使えない、修理したくても修理できないという状況になっている。
- ・奈良県が補助金を実施している太陽熱温水器は効率が良いため、導入すると良い。

【No.5】公共交通利用による観光入込客数

- ・自己評価シートのレンタサイクル利用者数にシェアバイク利用者は含まれているのか。
→自己評価シートに記載しているレンタサイクル利用者数は、春秋に実施しているパークアンドサイクルライドの利用者数である。
- ・できれば奈良公園への車流入を止めたいが、春日大社の駐車場がある限り、おそらく奈良公園には車が入ってくると思われる。

- ・脱炭素の問題。それから、広い意味での地域住民の暮らしとの関係で環境問題である。公共交通機関を利用促進するような施策を検討してもらいたい。

⇒基本方針②について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<基本方針③（シート No. 6～7）について>

【No. 6】 過去5年間の新たな認定新規就農者数

- ・先日、農林水産省が食料・農業・農村基本計画の中間見直しのパブリックコメントを実施していた。スマート農業やドローンを使う農業などの大規模な農業を推進していく内容であり、国は小さい規模の農業を切っていくつもりなのだと感じた。奈良市のように小さい田畑でやっている農業については、今後どう維持していくのかということを考えていかなければいけない。また、計画では、田んぼからメタンガスが発生するため、脱炭素に向けて、なるべく水を張らずに乾いた田んぼで管理をするように示されているが、そうすると生物多様性がなくなってしまう。農業の多面的機能をもっと重視しなければいけないと感じる。
- ・国連は「家族農業の10年」として、小規模農家への支援が重要であるとしている。日本はそれに逆行していると思われる。
- ・奈良市の農業分野では、やめる人が増えていることが問題であり、それをどう食い止めるかということが大事である。

【No. 7】 奈良県産学校給食地産地消率

- ・コメントに記載されているJA奈良県は正しくはJAならけんである。
- ・子どもの頃の食生活は非常に重要であるため、奈良の食材の良さを学びながらおいしい給食を食べてもらうことで、子どもたちへの食に関する学びが定着されることを望む。

⇒基本方針③について、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

<基本方針④（シート No. 8～9）について>

【No. 8】 1人1日あたりの家庭系ごみ搬入量

- ・廃棄物対策課が実施しているごみ減量キャラバンや食品ロス削減キャラバンについて、これも環境教育だと思うが、これは指標 No. 1 学校園への環境出前講座開催数にカウントされていないのか。そういうことも含めて、網羅的に横断的にできるとよい。

→現状カウントしていない。もしかしたら廃棄物対策課以外にも学校園へ行っているところもあるかもしれない。ごみ関係は廃棄物対策課へ、SDGs（人権関係）は総合政策課や共生社会推進課などへ確認する。

- ・家庭系の焼却ごみは減っているようだが、プラスチック製容器包装は増えているのではないか。

→データで確認すると、確かにここ数年、徐々にプラスチック製容器包装の量は増えている。

- ・プラスチック製容器包装の量は増えてきているが、一応それはちゃんと再資源化しているということだが、だからといって増やせばよいということではないので、プラごみも減らしていかなければいけない。
- ・1人1日あたりの家庭系ごみ搬入量を全体として減らす。さらに、プラごみなどの再資源化をきちんとしていくということが求められる。
- ・奈良市ごみ懇談会をやっていて、何を対策すべきかということになると、やはり多くは食品ロスと雑紙である。食品ロスに関しては、手つかず食品がかなり多い。

【No. 9】 事業系ごみ搬入量

- ・事業系については、やはり食品ロスが問題となっている。1回見切り品コーナーで買われなかったものは、廃棄される。バックヤードに残っていて、まだ食べられるものでも、事業者の責任として売れないし、渡せない。
- ・食品メーカーや卸売業者とスーパーなどの小売店の間で決められた商習慣である「3分の1ルール（製造日から賞味期限までの期間の最初の3分の1の期間に、卸売業者は小売店へ納品しなければならないというもの）」についても、食品ロスにつながっているため、農林水産省はそのルールの見直しを行っている。これまでの構造を変えていくことが重要である。

⇒基本方針④について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

<基本方針⑤（シート No. 10～12）について>

【No. 10】 大気環境基準達成率

- ・近年ずっと基準値を達成できているのであれば、達成できているということ、内外にしっかりとアピールするべきである。コメントとりまとめ（案）にも入れていただいで

いるので、その方向で進めていただきたい。

- ・大気は循環しているが、奈良市近隣の都市も環境基準を達成できているのか。
→担当課に確認します。

【No. 11】 河川 BOD 環境基準達成率

- ・平時の環境基準達成は引き続き維持してもらいたいが、大雨や災害時に廃油や有害物質等の流出が起こらないよう、事業場立ち入り時にきちんと管理できているか確認し、指導をしていただきたい。

【No. 12】 グリーンサポート制度による公園管理率

- ・公園全体のうちの 36.5%の公園がグリーンサポート制度により管理されており、その数が 173 公園であるという認識で良いのか。
→その通りである。地域の団体 141 団体が登録されており、報奨金等を活用して 173 公園を管理している。

⇒基本方針⑤について、いただいたご意見をコメントとりまとめに反映することで承認された。

<全分野の総括について>

- ・担当部局が SDGs との関連性を踏まえ自主的主体的に取り組み、成果について分析を行い、よりブラッシュアップした取組に進化させていってほしい。

⇒全分野の総括について、コメントとりまとめ案のとおりで承認された。

⇒いただいたご意見を集約してコメントとりまとめ案を修正し、推進会議参加者へメールで確認を依頼する。

(2) 第3次奈良市環境基本計画の推進について

<指標の調査方法について>

今回、評価対象外となっている指標 No. 2 「環境保全活動に参加したいと思う市民の割合」については、前計画から引き続き同じ指標を設定しているが、これまで計画改訂や見直し時に行ったアンケート調査結果を元に算出していたため、5年に一度しか実績値を得られず、ほとんど評価できなかった。第3次奈良市環境基本計画の進捗管理においては、もっと短い

スパンで実績値を把握するため、奈良市総合政策課が2年ごとに実施している市民意識調査の設問に追加してもらえないか打診し、昨年度の推進会議において参加者皆さまのご同意をいただいていた。

現状のご報告として、総合政策課担当者から、今年度は各課からのアンケート追加の要望が特に多く、1問追加できるかどうかというところであるとのことである。昨年度の推進会議において、指標となる設問1問だけでなく、市民の環境保全行動について聞く設問を追加することはできないかのご意見をいただいていたが、残念ながら難しい。8月頃に設問内容の調整が行われるため、設問案を検討しておいていただきたい。なお今後、市民意識調査の継続実施項目となるかどうかについては未定であるとのこと、現時点で2年ごとの実施は確約されないが、今後も打診し、できるだけ短いスパンで実績値を把握していきたいと考えている。

設問案については、昨年度の推進会議において「環境保全活動」という言葉が分かりづらいのご意見があったため、注釈として市民に分かりやすい内容を具体例として追記した形で提案している。

<評価方法について>

「第3次奈良市環境基本計画」の進捗率の評価方法について、各課の自己評価シートを確認している中で、目標値に向かっているにも関わらず進捗率60%未満は1点になってしまう状況となっている。10年間の計画であるため、初年度の進捗率は60%未満のものがほとんどであるため、評価基準がこのままで良いのか、再検討が必要なのかについてご意見をいただきたい。評価方法については、単年度評価と進捗率評価があり、それらの点数では推し測れない部分について、今回、評価項目に「行動指針・目指す方向性」を追加し、指標別点検評価基準表により評価している。進捗率の点数が低くなるのは仕方ないと思うが、推進会議参加者皆さまのご意見を伺いたい。

○質疑・意見の要旨

<指標の調査方法について>

- ・環境保全活動への参加という、何か規定の団体の集まりみたいところに参加するようなイメージだが、個人で環境保全行動をしている場合も含めるよう、注釈に追記してはどうか。

⇒注釈を、“団体又は個人で行っている活動や行動を指します。”に修正する。

<評価方法について>

・進捗率の計算結果がマイナスになっている指標があるが、それ自体に少し違和感がある。
また、年度単位での進捗率が本当に必要なのかというところについても疑問に思う。
→増加するのが目標の指標の場合に減少していたり、減少するのが目標の指標の場合に増加していると、進捗率はマイナスになる。マイナス表記の部分については、進捗率0%未満という表記にしてはいかがかと考える。

・評価方法については、担当課でしっかりと評価基準を考えてもらい、自主的主体的な担当課の取り組みがきちんと反映されることが大事だと思う。

⇒進捗率の評価基準については原案のままとし、自己評価シートの進捗率算出についてマイナスとなる場合は0%未満と記載する。

(3) その他

<奈良市ゼロカーボン戦略について>

現在策定中の「奈良市ゼロカーボン戦略」については、6月1日から6月30日までパブリックコメントを実施し、6通28件のご意見をいただいた。現在、結果の公表についての準備を進めているところである。今後、環境審議会を行い、策定を行う予定となっている。

以上